

感染症内科プログラム

一般目標(オリエンテーション)

当院は、感染制御やコンサルテーション業務だけでなく、入院診療を行うことができる全国的にも数少ない研修機関です。院内感染対策としては、院内感染のアウトブレイク対応や針刺し、血液粘膜曝露に対する対応、毎週行われる抗菌薬適正使用支援チーム(AST)や感染対策チーム(ICT)の活動に参加し、感染症診療におけるチーム医療の重要性や感染制御の基本原則について学ぶことができます。専門的診療では、COVID-19診療はもちろんのこと、市中感染症、骨髄・腎移植患者や免疫不全患者における日和見感染症、海外渡航に関連した感染症など、幅広い症例を通じて診断・治療の実践的なスキルを身につけます。そのほか、院内の血液培養陽性者への診療介入を365日感染症内科医が行っており、指導医とともにグラム染色から原因菌を想定し抗菌薬を選択することから開始し、抗菌薬のde-escalationや治療後の病態評価まで継続して診療介入します。他科からのコンサルテーションにも365日対応し、適切な検査や治療の診療支援も一緒に行います。研修医は感染症に関する基本的な診断能力と治療方針の立案能力を養うとともに、抗菌薬の適正使用および院内感染対策の重要性を理解し、医療チームの一員として実践的に関与できることを目指します。1年目では、指導医とともに患者診察、治療を行います。2年目では、1年目の研修内容に引き続き、他科コンサルテーションや血液培養陽性者への診療介入を実際に経験し、治療方針を決定することが可能です。

行動目標

B-1医学・医療における倫理性	感染症患者の診療において、患者の人権とプライバシーに十分配慮し、差別や偏見のない対応を行う。感染拡大防止のための措置(隔離や報告義務など)に関して、個人の自由と公衆衛生とのバランスを意識した対応をとる。
B-2医学知識と問題対応能力	発熱、咳嗽、下痢、発疹などの感染症を示唆する症状に対して、適切な鑑別診断を行い、必要な検査を選択できる。感染症の重症度を的確に評価し、迅速かつ優先順位をつけた対応(例:敗血症の早期対応)ができる。培養結果の正しい解釈ができる。
B-3診療技能と患者ケア	感染症を疑う症例において、適切な問診(渡航歴、接触歴、ワクチン歴などを含む)と身体診察を実施し、情報を的確に整理できる。抗菌薬の適正使用を実践し、薬剤選択・投与量・投与期間について指導医と相談しながら判断できる。
B-4コミュニケーション能力	感染症に対する診断や治療方針について、患者および家族に対しわかりやすく説明し、十分なインフォームド・コンセントを得ることができる。
B-5チーム医療の実践	感染制御チーム(ICT)や抗菌薬適正使用チーム(AST)など、多職種チームの一員として、他職種と円滑な情報共有・意思疎通を行うことができる。
B-6医療の質と安全管理	抗菌薬の不適切な使用が耐性菌の出現や治療失敗を招くことを理解し、抗菌薬適正使用の実践を通じて医療の質の向上に貢献する。院内感染のリスク要因を認識し、医療関連感染(HAI)の予防のための行動(手指衛生、デバイス管理、隔離指示など)を確実に実行することができる。
B-7社会における医療の実践	法定感染症や届出義務のある疾患について正しく理解し、関係機関への適切な報告を行う重要性を認識できる。災害時やパンデミック発生時など、社会的混乱における感染症対応の基礎的知識を持ち、医療人としての役割を自覚することができる。
B-8科学的探究	感染症診療における疑問点や臨床課題に対して、ガイドラインや最新の文献を用いて情報収集・整理ができる。
B-9生涯に渡って共に学ぶ姿勢	担当した症例を通じて、その患者の問題点やその時点での疾患概念について一つ一つ検証する習慣をつける。また、新しい医療情報の収集方法や新しい知識を積極的に取り入れる姿勢を学ぶ。

研修の方略(LS)

週間スケジュール	月	火	水	木	金
時間					
8:40~9:00	病棟ブリーフィング	病棟ブリーフィング	病棟ブリーフィング	病棟ブリーフィング	病棟ブリーフィング
8:50~9:30	感染対策カンファレンス	感染対策カンファレンス	感染対策カンファレンス	感染対策カンファレンス	感染対策カンファレンス
9:30~10:30	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診
10:30~12:00	一般診療	一般診療	一般診療	血液培養カンファレンス	一般診療
12:00~13:00	研修医カンファレンス	研修医カンファレンス	研修医カンファレンス	研修医カンファレンス	研修医カンファレンス
13:00~14:00	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み
14:00~15:00		病棟多職種カンファレンス	ASTカンファレンス	ICTミーティング・ラウンド	
16:00~17:00					診療科カンファレンス

研修医の業務

- ①入院患者の担当医として、上級医・指導医とともに診療を行う。
 - ②上級医の他科からの感染症科コンサルテーションに同行し、一緒に診察、検査の解釈、抗菌薬の変更などを検討する。
 - ③血液培養陽性者のラウンドに同行し、症例の検討、アドバイスの意見交換を行う。
 - ④ASTカンファレンスに参加し、耐性菌の発生状況、新規に広域抗菌薬、抗MRSA薬の使用が開始された全症例の抗菌薬の用法、用量が適切であるか、培養結果などから適正使用か検討する。
 - ⑤ICTミーティング・ラウンドに参加し、病棟ラウンドによる日常の感染対策の励行状況を確認する。
- カンファレンス: 1) 毎日のカンファレンス・回診において、担当の患者の問題点、方針を簡潔に発表する。2) 毎週火曜日午後に行われる、看護師・薬剤師・栄養士・リハビリ・ソーシャルワーカーとの多職種カンファレンスにおいて、担当患者に関するプレゼンテーションを行い、多職種とのディスカッションを行う。3) ASTカンファレンス、ICTカンファレンスにも出席し、感染制御についても学ぶ。

手術: 該当なし

その他 緊急時対応・学術活動等:

珍しい疾患や教訓的な症例を経験した際は、学会発表を行う。

経験可能な症候(経験すべき症候29症例中10症候)		
1	ショック	○ 敗血症性ショックの重症度評価とその管理、鑑別診断と原因菌検索や感染巣の検索
2	体重減少・るい痩	○ 慢性の感染による消耗状態の評価、食事摂取量の評価、嚥下機能の評価と栄養管理
3	発疹	○ ウイルス疾患による皮疹や薬剤アレルギーによる皮疹
4	黄疸	
5	発熱	○ 不明熱の鑑別診断
6	もの忘れ	
7	頭痛	○ ウイルス感染、髄膜炎などによる頭痛の鑑別とその対応
8	めまい	
9	意識障害・失神	
10	けいれん発作	
11	視力障害	
12	胸痛	○ 肺炎、胸膜炎、带状疱疹などによる胸痛の鑑別
13	心停止	
14	呼吸困難	○ 肺炎、嚥下障害などによる呼吸困難の鑑別とその対応
15	吐血・喀血	
16	下血・血便	
17	嘔気・嘔吐	○ 感染性腸炎の鑑別、診断、治療
18	腹痛	○ 感染性腸炎の鑑別、診断、治療
19	便通異常(下痢・便秘)	
20	熱傷・外傷	
21	腰・背部痛	○ 腎盂腎炎、腸腰筋膿瘍、化膿性脊椎炎などの鑑別、診断、治療
22	関節痛	
23	運動麻痺・筋力低下	
24	排尿障害(尿失禁・排尿困難)	
25	興奮・せん妄	○ 重症感染症時に起こるせん妄の管理
26	抑うつ	
27	成長・発達障害	
28	妊娠・出産	
29	終末期の症候	○ 超高齢者の嚥下障害時などの終末期医療
経験可能な疾病・病態(経験すべき疾病・病態26疾病・病態中5疾病・病態)		
1	脳血管障害	
2	認知症	
3	急性冠症候群	
4	心不全	
5	大動脈瘤	
6	高血圧	
7	肺癌	
8	肺炎	○
9	急性上気道炎	○
10	気管支喘息	
11	慢性閉塞性肺疾患(COPD)	
12	急性胃腸炎	
13	胃癌	
14	消化性潰瘍	
15	肝炎・肝硬変	
16	胆石症	
17	大腸癌	
18	腎盂腎炎	○
19	尿路結石	
20	腎不全	
21	高エネルギー外傷・骨折	
22	糖尿病	
23	脂質異常症	
24	うつ病	
25	統合失調症	
26	依存症(ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博)	

[illegible]